

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	イベント・メディア業界研究 3	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	内容に応じて資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	樽林 史章		実務経験の有無・職種	無	
学習目的					
日本の音楽シーンを中心に、流行音楽の流行り、廃り、を知るとともに、その音楽シーンが出来上がっていった社会状況を学びます。世界状況や経済状況の中から、どんな音楽が生まれ、育ち、売れて行ったか。なぜその音楽は売れ、人々はその音楽を必要としたのかを社会情勢を通して学びます。また、アーティスト自身が発信したいもの、伝えたいことは何であるかを直接知ることにより、発信者と消費者との関係を知り、流行った理由、廃れた理由を学びます。					
到達目標					
音楽業界で働く物として不可欠な音楽知識を身に付け、音楽シーンの歴史・多彩なアーティストへの理解力を高めることが出来る。また、音楽産業を通して日本の経済状況や、世界からどんな影響を受けて来たのかを、音楽業界だけでなく、社会全体の動きとして学ぶことが出来る。アーティストインタビューなどを通して、発信者や制作者の本当の意図を知り、伝え手として、どう伝えるべきなのか、社会へ出すタイミングやその手法なども学ぶことが出来る。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、パワーポイントを使用し、授業を進める。また、ジャパンミュージックネットワーク株式会社の発行するwebマガジン、MUSIC UP'sの記事を使用し、実際に行われたアーティストへのインタビュー記事を基に楽曲制作の意図などを解説を交えて理解を目指す。制作意図の中からきっかけとなった社会情勢などを垣間見て、同じような社会情勢での生まれた楽曲などを理解する。				
注意点	この授業では、楽曲を製作したアーティストがどういった状況下の中で作られたものなのかを理解し、発表される楽曲から社会状況を知ることが重視する。また私語や受講態度には厳しく対応する。開始時、終了時の挨拶をしっかりと行い、受講姿勢がクラス全体で出来上がった状態で講義を開始する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することが出来ない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	定期試験・提出課題によって評価		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	J-POPとは		日本の音楽シーンの発祥から現在までを知ります		
2回	歌謡曲からGSブームへ1		歌謡曲の成長からグループサウンドブームへの意向とその社会背景を把握します		
3回	歌謡曲からGSブームへ2		歌謡曲の成長からグループサウンドブームへ。人々が音楽に求めたものを理解します		
4回	GSブームとフォークソング1		グループサウンドとフォークソング、二極化した日本の音楽シーンを把握します		
5回	GSブームとフォークソング2		フォークソングブーム。その時日本の抱えて問題とは。若者が指示したことを理解します		
6回	ニューミュージックとシティポップ1		ニューミュージックの誕生と社会・経済状況を把握します		
7回	ニューミュージックとシティポップ2		経済と共に成長したニューミュージック。日本の音楽ビジネス業界の成長を理解します		
8回	アイドル誕生		何故、アイドルが産まれたの。人々を魅了した理由を把握します		
9回	アイドル変遷 1		日本の音楽シーンが仕掛けたアイドル産業とは。次々と変わるアイドル像と社会を理解します		
10回	日本ロックの誕生		日本のロックシーンの誕生は世界の何から影響を受けたのかを把握します		
11回	日本ロックの成長		世界・日本経済が与えた日本ロックシーンの成長。社会背景を理解します		
12回	日本ロックの変遷		近年の日本ロックシーンをけん引、影響を与えたもの。日本におけるロックのあり方を理解します		
13回	前期試験対策		これまでの講義内容を振り返り、重要力所の理解と共にテスト対策		
14回	インディーズブーム		日本のインディーズブームを成長させた若者カルチャー。雑誌「宝島」の時代を理解します		
15回	ヒップホップ到来		日本におけるラップ2大流派を把握します		